

セリフを介した登場人物の印象評価に及ぼす演者の性別の効果 ～宝塚歌劇作品「エリザベート」を用いた検討～

The effect of performer's gender on the impression of characters based on the lines in "Elisabeth" performed by the Takarazuka Revue

小島 隆次[†], 井手 菜月[†]
Takatsugu Kojima, Natsuki Ide

[†]滋賀医科大学
Shiga University of Medical Science
tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

Abstract

This study examined the effect of performer's gender on the impression of characters based on lines in plays. In the present experiment, participants were instructed to evaluate the impression of the characters based on the lines using SD method, which were picked up from "Elisabeth" performed by the Takarazuka Revue. We controlled performer's gender of the characters and used two conditions, the male and female conditions.

It was found that the impression of a male character was evaluated as more mannish or less feminine under the female condition in some SD items. The results suggest that performer's gender can affect the impression of characters based on lines in plays.

Keywords — Gender stereotype, Drama, Character impression, Takarazuka Revue

1. はじめに

多くの演劇、映画、テレビドラマでは、登場人物の性別は演者の性別と一致していることが多い。しかし、宝塚歌劇団のように劇団員が全員女性であったり、トロカデロ・デ・モンテカルロバレエ団のように団員が全員男性であるものも存在する。こうした、演者の性別が統一された演劇作品に共通する作品の魅力を構成する要素にはどのようなものがあるだろうかと考えた場合、セリフを介した登場人物の印象評価に及ぼす演者の性別の効果は、重要な要素の一つではないかと考えられる。

そこで、本研究では、セリフを介した登場人物の印象評価に及ぼす演者の性別の効果、宝塚歌劇作品「エリザベート」の主要登場人物のセリフの一部と、それらセリフに基づくSD法を用いた登場人物の印象評定実験によって検討した。

2. 調査

2.1. 目的

宝塚歌劇作品「エリザベート」を用いて、演劇作品

において、セリフを介した登場人物の印象評価に及ぼす演者の性別の効果を検討することを目的とした。

2.2. 方法

2.2.1. 実験参加者

実験には、319名の男女の大学生・大学院生が参加した（平均年齢20.30歳， $SD=4.01$ ）。参加者は実験時に提示されるセリフの種類に応じて、後述の8つのグループのいずれかに割り当てられた。

2.2.2. 刺激と調査デザイン

実験で使用するセリフを選定するために、宝塚歌劇団の「エリザベート—愛と死の輪舞—」のDVD[1]を視聴し、主要登場人物のセリフを全て書き起こしてテキストデータを作成した。そして、印象評価の対象であるセリフは、劇中のある場面の複数のセリフを使用することとした。具体的なセリフの選定基準は以下であった。また、印象評定に使用したセリフの提示画面の一部を図1に示す。

- 主要キャラクター（エリザベート、トート、ヨーゼフ一世）のセリフだけで構成されている場面であること
- 主要キャラクター同士の会話場面的場合には会話の意味がテキストの情報だけでもそれなりに理解できること
- 主要キャラクターの独白場面的場合には独白の意味がテキストの情報だけでもそれなりに理解できること
- 各主要キャラクターの性質を反映しているような場面であること
- 実験刺激として全体が適度な長さとなること

以下は劇中の登場人物E(男性の役者が担当)がT(男性の役者が担当)に対して語りかける場面におけるセリフです。
この語りかけをよく読んで、続く質問にお答え下さい。

話者
E 嫌よ、大人しいお妃なんて
E なれない、かわいい人形なんて
E あなたのものじゃないの
E この私は
E 細いローブたくってのぼろの
E スリルに耐えて世界見下ろす
E 冒険の旅に出る
E 私だけ
E 義務を押し付けられたら、出ていく私
E 捕まえるというのなら、飛び出していくわ
E 鳥のように解き放たれて、光めざし夜空飛び立つ
E でも見失わない私だけは
E いやよ人目にさらされるなど
E 話す相手、私が選ぶ
E 誰のものでもない
E この私は
E ありのままの私は宮殿にはいない
E 誰にも束縛されず自由に生きるの
E たとえ王家に嫁いだ身でも、命だけは預けはしない
E 私が命守らねる、それは私だけ

図 1. 印象評価用に提示したセリフの例

印象を評価する際には、独白場面であれ、対話場面であれ、エリザベート、トート、ヨーゼフ一世の三名のキャラクターのいずれかのセリフのみを対象とした。但し、キャラクターの名称は明示せず、それぞれの頭文字を用いて、E、T、Yと表記した。

実験では、これら三名のキャラクターを男性の役者が演じたとする場合(男性役者条件)と女性の役者が演じたとする場合(女性役者条件)という設定を置き、セリフに基づく各キャラクターの印象評価を行った。したがって、男性役者条件では、エリザベートでは役と役者の性別が不一致となり、女性役者条件では、トートとヨーゼフ一世において役と役者の性別が不一致となる。また、トートについては、男役であり、かつ作品における中心キャラクターであることから、二通りのセリフ刺激を用意したため、実験グループは全8グループとした(役者の性別設定2×セリフの種類4=8)。

SD法での印象評価のために使用した形容詞対は、話者の性別と発話内容との関係を検討した有泉(2007)[2]の研究で用いられた性別関連特性の形容詞と対人認知・印象に関するSD評価尺度(川名, 1986)[3]を参考にして、46項目を作成した(表1参照)。

2.2.3. 手続き

実験はLimeSurveyを使用したインターネット実験形式であり、参加者各自がウェブブラウザ上で行った。参加者は実験用ウェブサイトにアクセスし、最初のページで実験全体についての教示を受けた。その後、指定されたキャラクターのセリフについて、SD法による印象評価を7件法で行った。

2.3. 結果

キャラクターの各印象項目の平均評定値について、男性役者条件と女性役者条件との間で、有意水準を5%としてt検定を行った結果をまとめたものが表1である。また、宝塚歌劇団は演者が全員女性であることと本研究の目的から、以下では特に女性役者条件を中心にデータを紹介する。

2.3.1. エリザベートのセリフに基づく印象評価

エリザベート(女性キャラクター)のセリフに基づく印象評価の結果、役者の性別条件間で統計的に有意な差が見られたのは2項目であり、ともに性別関連特性についてのものであった。男性関連特性である独創性は、女性役者条件で男性性が男性役者条件よりも高くなる結果となり、女性関連特性である性的魅力は、女性役者条件で女性性が男性役者条件よりも高くなる結果となった。

2.3.2. トートのセリフに基づく印象評価

トート(男性キャラクター)のセリフに基づく印象評価の結果、役者の性別条件間で統計的に有意な差が見られた項目数は、トートその1については10項目、トートその2については8項目であった。

トートその1について有意な差が見られた10項目の内、9項目が性別関連特性であった。また、この9項目中7項目が男性関連項目であり、2項目が女性関連項目であった。有意な差が見られた男性関連項目7項目の内、たくましさ、進歩性、先駆性、独創性、勇敢さ、の5項目については、女性役者条件の方が男性役者条件よりも男性性が高かった。残りの2項目の、品性と頑固さは、女性役者条件の方が男性役者条件よりも男性性は低かった。有意な差が見られた女性関連項目2項目については、怖がりやすさと感動のしやすさともに、女性役者条件の方が男性役者条件よりも女性性が低かった。

トートその2について有意な差が見られた8項目の内、6項目が性別関連特性であった。また、この6項目中4項目が男性関連項目であり、2項目が女性関連項目であった。有意な差が見られた男性関連項目4項目全てにおいて、女性役者条件の方が男性役者条件よりも男性性が低かった。有意な差が見られた女性関連項目2項目については、怖がりやすさと安定性ともに、女性役者条件の方が男性役者条件よりも女性性が低かった。

2.3.3. ヨーゼフ一世のセリフに基づく印象評定

ヨーゼフ一世（男性キャラクター）のセリフに基づく印象評定の結果、役者の性別条件間で統計的に有意な差が見られた項目数は、4項目であった。有意な差が見られた4項目の内、3項目が性別関連特性であった。また、この3項目中1項目が男性関連項目であり、2項目が女性関連項目であった。有意な差が見られた男性関連項目である自信については、女性役者条件の方が男性役者条件よりも男性性が低かった。有意な差が見られた女性関連項目2項目については、怖がりやすさと依存性ともに、女性役者条件の方が男性役者条件

よりも女性性が低かった。

3. まとめと展望

今回の実験結果から、セリフを介した劇中キャラクターの印象評価について、演者の性別の効果が生じるケースの存在が示された。特に、評価対象が男性キャラクターの場合において、女性が演じたと想定した条件では、男性が演じたと想定した条件よりも、男性性が高く評価されたり、女性性が低く評価されるケースが示された。但し、そうした効果が見られたのは、本実験における男性キャラクターの3種類の

表 1. SD 法による印象評価結果のまとめ

印象項目	登場キャラクター							
	エリザベート		トートその1		トートその2		フランツヨーゼフ一世	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
[1.傲慢な — 7.謙虚な]	2.68	2.89	1.85	1.95	1.57 **	2.18	2.74	2.97
[1.恥ずかしがりの — 7.目立ちがりの]	4.38	4.41	5.29	4.84	5.74	5.28	4.09	4.49
[1.攻撃的な — 7.大人しい]	2.71	2.37	2.07	2.09	2.19	2.54	3.14	3.26
[1.弱い — 7.強い]	5.12	5.39	4.51	4.86	4.69	5.18	3.60	4.21
[1.陰気な — 7.陽気な]	3.68	3.85	3.68	3.65	3.69	3.67	3.26	3.31
[1.粗雑な — 7.繊細な]	4.85	4.35	3.10	3.42	4.17	4.54	4.09	4.64
[1.怖がりな — 7.度胸のある]	4.79	5.24	4.00 *	4.72	4.55 *	5.26	3.09 *	3.90
[1.頑固な — 7.柔軟な]	2.68	2.39	1.90 *	2.49	2.26	2.77	2.83	2.46
[1.不安定な — 7.安定な]	3.12	2.70	2.68	3.16	2.24 *	2.87	2.37	2.72
[1.善良な — 7.不道徳な]	3.79	3.83	4.49	4.53	4.48	4.00	4.40	4.38
[1.下品な — 7.上品な]	4.50	4.50	3.29 *	3.72	3.83	3.97	4.09	4.03
[1.独断的な — 7.協調的な]	2.59	2.28	1.66	1.91	1.69 **	2.31	2.57	2.82
[1.控えめな — 7.派手な]	4.53	4.85	5.22	5.05	5.67	5.54	4.26	4.08
[1.親しみにくい — 7.親しみやすい]	3.24	3.43	2.78	2.56	2.60	2.67	3.26	3.41
[1.個人主義的な — 7.集団主義的な]	1.91	1.98	1.90	1.98	1.74 **	2.44	3.03	3.15
[1.向こう見ずな — 7.慎重な]	2.74	2.76	2.49	2.88	2.17 *	2.67	3.40	3.85
[1.神経質な — 7.がさつな]	3.62	3.83	3.68	4.00	3.69	3.41	2.94	3.31
[1.付き合いやすい — 7.付き合いにくい]	4.91	4.85	5.39	5.21	5.48	5.41	5.14	5.05
[1.自信がある — 7.自信がない]	3.21	2.61	2.88	2.35	2.79	2.56	3.29 *	4.08
[1.用心深い — 7.不用心な]	4.15	4.07	3.90	3.65	4.05	3.79	3.23	3.72
[1.たくましい — 7.弱々しい]	3.03	2.59	3.51 *	2.84	3.21	2.67	4.49	3.90
[1.依存的な — 7.独立した]	4.97	5.02	3.15	3.51	2.86	3.54	2.20 *	3.15
[1.不誠実な — 7.誠実な]	4.29	4.13	3.66	3.79	3.95	4.46	3.63	4.00
[1.皮肉を言う — 7.お世辞を言う]	3.03	3.07	3.22	3.26	3.52	3.36	4.17	3.85
[1.やさしい — 7.きつい]	5.12	4.80	5.00	5.28	4.38	4.87	3.94	4.26
[1.頭が固い — 7.頭が柔らかい]	3.26	3.74	2.49	2.81	2.90	3.05	2.46	2.82
[1.感じの良い — 7.感じの悪い]	4.35	4.28	5.12	4.91	4.69	4.49	4.37	4.49
[1.進歩的な — 7.保守的な]	3.26	3.15	4.51 *	3.81	4.00	3.69	5.31	4.74
[1.愛らしい — 7.憎らしい]	4.09	3.96	4.56	4.72	4.12	4.05	4.29	4.36
[1.発明の才がある — 7.発明の才がない]	3.82	3.76	4.32	3.91	3.62	3.49	5.00	4.44
[1.好感の持てる — 7.好感の持てない]	3.94	4.09	5.39	5.07	4.93	4.36	4.97	4.92
[1.先駆的な — 7.継承的な]	3.26	3.22	4.32 *	3.70	3.60	3.08	5.09	4.64
[1.話し好きの — 7.無口な]	2.85	3.02	3.24	3.67	3.02	2.77	3.37	3.85
[1.ユーモアのある — 7.ユーモアのない]	3.79	3.76	4.15	4.60	3.69	3.46	4.46	4.36
[1.感動しやすい — 7.無感動な]	3.15	3.24	3.34 **	4.28	2.76	3.13	3.34	3.72
[1.頭が悪い — 7.頭が良い]	3.94	4.15	3.54	4.07	3.52 **	4.31	3.57 *	4.23
[1.興味範囲の広い — 7.興味範囲の狭い]	3.29	3.11	4.98	4.58	4.31	4.15	4.54	4.49
[1.好奇心のある — 7.無関心な]	2.76	2.57	3.49	3.53	2.79	3.23	4.09	4.03
[1.人との付き合いが得意そうな — 7.人との付き合いが苦手そうな]	4.59	4.46	5.07	4.72	4.93	4.62	4.63	4.97
[1.独創的な — 7.平凡な]	3.06 *	2.41	3.37 *	2.67	2.26	2.13	4.34	3.74
[1.情け深い — 7.容赦のない]	4.09	4.39	4.46	4.91	4.10	4.44	4.43	4.56
[1.親切的な — 7.不親切的な]	3.79	3.80	4.54	4.40	4.12	4.05	4.40 , 4.21	4.20 , 4.18
[1.機敏な — 7.鈍重な]	3.50	3.04	3.98	3.79	3.43	3.28	4.57	4.18
[1.性的魅力のある — 7.性的魅力のない]	4.32 *	3.52	4.27	4.00	3.55	3.72	4.80	4.54
[1.不公平な — 7.公平な]	3.97	3.87	3.07 *	3.65	3.10 **	3.85	3.43	3.62
[1.勇気のある — 7.勇気のない]	2.53	2.30	3.80 *	3.02	2.76	2.74	4.74	4.18

セリフ条件の内の1つだけであることから、効果の発生条件がセリフの内容や特性（例えば、セリフのジェンダーステレオタイプなど）、そして対話文脈などに大きく依存する可能性がある点には注意しなければならない。今後は、こうしたセリフや対話文脈に含まれる様々な要素との関係で演者の性別効果を検討していくことも重要であると考えられる。

また、こうした効果の存在は、宝塚歌劇のように、演者の性別が統一された劇作品の普遍的な魅力を考察する上で、新たな視点を与えてくれる事実であると言える。

参考資料・文献

- [1] 宝塚歌劇団 (2014). 「エリザベート—愛と死の輪舞—」 DVD, 宝塚クリエイティブアーツ販売, EAN コード 4939804124444.
- [2] 有泉優里 (2007). 文末形式のジェンダーが話者についての印象に及ぼす影響 社会言語学, **9**, 3-16.
- [3] 川名好裕 (1986). 対話状況における聞き手の相づちが対人魅力に及ぼす効果 実験社会心理学研究, **26**, 67-76.